

編集後記

こんにちは、編集幹事の関口です。今回の遊星人では、新連載「Phaethonをフライバイ!」が始まりました。深宇宙探査技術実証機DESTINY+は、ふたご座流星群母天体Phaethonを目指し2025年度の打ち上げが予定されています。また前々号で「その0」としての胎動を始めた「みつめる・みつもる」が本号では「その1」として正式な新連載となりました。そして今回の遊星人、本学会誌としてはおそらく初めての記事内容となる武田先生、山本先生への「追悼記事」が掲載されています。表紙の略題には「惑星科学への薫陶」としました。どう表現すべきか迷い、執筆者の皆さんのお気持ちがこういう言葉で伝わるのかとも心許ないのも本心です。

惑星科学会は比較的新しい学会かと思います。そんな本学会黎明期の貢献者、研究の先駆者達による薫陶の下、今の学会の姿があるといった思いもします。私も院生時分に山本先生に直接ご指導いただいた one

of 山本チルドレン一期生(変な英語)。いろんなことが走馬灯です。「テフニシャン(綴りがわかりません)にならなあかんのや」とか「ランダウ読むと頭がスカッとすんや。シャットとした感じやな」などと言われておりました。あほな私は「ランダウ先生はトニックシャンプーなんですか?」と間抜けな返し。「最近大学来ると、朝は写経に励んでおるんや」というお話には(ランダウの教科書のことを言われていたのですが)、あほな私は「え?精神集中ですか??」と普通に返し、先生は「そうや、そうや」と満面の笑顔で応えてくださいました。ビール飲んだ後にまた仕事するという感覚は、院生の私にはまったくなかったものなのですが、お姿がすり込まれ(?)、当時の先生の齢を過ぎてしまった今の私には普通のこと。毎日晚酌する飲んべいです。できあがった後には夜空の遊星人との会合周期はもう求まりません。走馬灯の回転木馬。(関口)